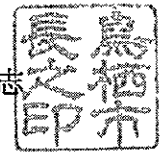


鳥 都 第 3980号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

鳥栖市長 橋 本 康 志



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼がありました、このことについては、別添のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

佐賀県鳥栖市

本市は、ＪＲや国道、高速自動車道の分岐点であり、九州陸路交通の要衝としての特性を持っております。中でも高速自動車道のクロスポイントである「鳥栖ジャンクション」は、他市にはない交通利便性を確立し、九州物流の一大集積地としての重要な役割を果たしております。さらに、平成２３年春には九州新幹線鹿児島ルートの特設全線開業を控え、九州陸路交通の要衝としての重要性は益々高まるものと思われまます。

しかしながら、市内の主要幹線道路の内、特に国道３号、３４号につきましては、１日の交通量が約２５，０００台を超えているにもかかわらず、そのほとんどが片側１車線であることから、交通需要に対応できず恒常的な渋滞が随所に見られ、交通事故の多発や沿線住民の健全な日常生活、さらには九州圏域の産業・文化交流等にも大きな影響を及ぼしております。

つきましては、このような交通渋滞を解消するため、車道の４車線化あるいはバイパスなどの計画を早期に行い、広域の「人・モノ・情報・文化の交流」がスムーズに行えるよう優先的な道路整備が必要であると考えます。

【意見】

- ・ 広域交通を担う主要な幹線道路については、交通需要に即した道路整備が必要である。
- ・ 九州圏域には、半導体や自動車産業の立地が進み、アジアに向けた新たな拠点形成が進んでおり、九州全体の躍進を後押しするための基盤整備が必要である。
- ・ 地方の実情に柔軟に対応できる地方道路整備臨時交付金制度を維持充実、あるいは、同等以上の代替制度を確立することが必要である。

【要望】

- ・ 主要幹線道路における車道の４車線化あるいはバイパスなどの早期計画策定
- ・ 主要幹線道路における渋滞ポイントの早期解消に向けた政策強化と整備促進
- ・ 道路整備に限らず既存ストックを活用した、戦略的な高速道路料金の設定などソフト面の支援策
- ・ 地方の道路整備の必要性や厳しい財政状況にかんがみ、地方の意見を十分に踏まえ、必要な道路整備が確実に行えるような安定的な道路予算の確保

今後の道路行政についての意見・提案

②－１地域の現状と抱える課題

佐賀県鳥栖市

○現状

《幹線道路》

- ・主要幹線道路の交通量（１日あたり）
 - 国道３号 → 約 25,000 台（混雑度：1.73）
 - 国道 34 号 → 約 27,000 台（混雑度：1.89）
 - 県道中原鳥栖線 → 約 11,000 台（混雑度：0.92）
 - 県道佐賀川久保鳥栖線 → 約 24,000 台（混雑度：1.91）
- ※平成 17 年度道路交通センサスより

《生活道路》

- ・生活道路の維持管理や補修等に務めるとともに、道路改良や歩道の整備など安全安心の快適な道づくりを推進しているが、厳しい財政事情のもと道路事業等評価システムなどを活用し、優先度の高いものから整備しているのが現状である。
- 注）道路事業評価システムは鳥栖市独自のものである。

○課題

《幹線道路》

- ・主要幹線道路の渋滞が、市街地を中心に恒常的な交通渋滞を招き、さらには、生活道路にも通過車両等が入り込むなど市民生活や様々な分野に影響を及ぼしている。

【交通渋滞による影響】

①産業経済 → 走行速度低下による損失

	路線名	11 年度	17 年度
ピーク時速度	国道 34 号	32.0 km/h	20.1 km/h
	県道佐賀川久保鳥栖線	28.3 km/h	26.0 km/h

資料：道路交通センサス

②交通安全 → 交通事故の件数の増大

鳥栖市全体	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
件数（人）	776	766	809	823	844
死者（人）	2	6	6	4	3
傷者（人）	1,035	1,021	1,089	1,063	1,106

資料：交通さが

《生活道路》

【財政事情による影響】

- ・道路の維持管理や補修等
- ・道路新設改良（緊急車両のスムーズな通行や通学道路の安全確保）
- ・ユニバーサルデザインの推進
- ・バリアフリーの取組み

※地方の道路管理水準を高めるため、国が財政的・技術的支援を行う仕組みづくりが必要である

今後の道路行政についての意見・提案

②－２地域の目指すべき将来像

佐賀県鳥栖市

本市は古くから、肥前・筑前・筑後の三国が接する要の地にあり、長崎街道から久留米道・日田道等などの分岐点として、「人・モノ・情報・文化の交流」の役割を担ってきました。また、鉄道においては、鹿児島本線と長崎本線の分岐点となり、鉄道のまちとしての基礎がつくられ、独自の歴史や文化を育んできた地域であります。

現在、道路においては、九州交通の大動脈である国道３号、３４号さらには、九州縦貫自動車道と九州横断自動車道がクロスする九州陸路交通の要衝として発展を遂げてきました。しかしながら、国道をはじめとする主要幹線道路は、交通量の増大により、市街地を中心に恒常的な渋滞を引き起こし、さらに、通過交通が生活道路へ流入するなど、交通事故の多発や沿線住民の日常生活さらには経済活動に大きな影響を及ぼしております。

このような中、本市といたしましては、第５次総合計画の基本理念である「文化のあるまち」「交流のあるまち」「共生するまち」を念頭に置き、将来の都市像の基本を「笑顔ひろがる文化・交流・共生の都市～２１世紀鳥栖ハートオブ九州をめざして～」と定め計画を推進することとしております。

九州には多数の温泉地、海・山のリゾート、そして美味しい食が至るところに点在し、「自然」「観光」「食」さらには、「健康」などをキーワードとしたネットワークの構築を九州全体で取り組むことが地域の活性化さらには、九州全体の浮揚につながるものと考えております。

そのためにも、九州各地を結ぶ国道３号、３４号をはじめとした広域主要幹線道などの整備を行うことが、交通混雑の解消と排気ガスの排出抑制など環境への悪影響の改善が期待されるとともに、県境を越えた都市間の広域移動が容易になり、九州全体の道路ネットワークの構築が促進されます。

このことから、本市としては、九州の交差点という立地を活かし、福岡、鹿児島南北の縦軸と大分、長崎の東西の横軸を緊密にする役割、さらには、産業経済、情報発信などの多方面においても起点になり得ることを目指しております。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

佐賀県鳥栖市

○重点事項 ・地域活力の向上 及び都市交通の 快適性、利便性の 向上	○代表事例 【国道３号】 ・鳥栖拡幅及び鳥栖久留米道路の早期事業完了 ・鳥栖拡幅以南の整備計画策定 【国道３４号】 ・村田町交差点改良事業の早期事業完了 ・バイパス等を含めた整備計画策定 【県道中原鳥栖線】 ・市浄化センター以西（鳥南橋を含む）の整備計画策定 【県道佐賀川久保鳥栖線】 ・乗目交差点改良事業の早期事業完了 ・乗目交差点以西の整備計画策定	○期待する効果や評価等 本市は、当地域の交通利便性を活かし昭和３０年代から一貫して企業誘致施策を市の最重要課題に位置づけ、九州屈指の内陸工業都市として発展を遂げてまいりました。平成１９年度末現在で、１５３社の企業が進出をしており、現在も次のように主要幹線道路周辺で工業団地等の整備が行われております。 【国道３号】 国道に隣接する鳥栖流通業務団地（約６８ha）が平成１８年度から分譲が開始されており、すでに８０％を超える申込がっております。 《申込区画・面積》 ・３３区画（約３９ha）※分譲面積：４６．３ha 《進出企業数》 ・２１社（平成２０年１０月１日現在） 《雇用見込み数》 ・約２，０００人 【国道３４号】【県道中原鳥栖線】 国道の南側には、佐賀県との共同による約３０haの新産業集積エリアの計画が進められているところであります。 《分譲開始時期》 ・平成２２年度予定（一部分譲） このような状況からも、国道、県道への大型車を中心とした流入量は、飛躍的に増大すると予想され、道路整備が行われることにより、地域経済の発展や住民生活の向上に計り知れない効果がもたらされ、さらには、地球環境等への影響が緩和されることが考えております。	その他
--	---	---	-----

【県道佐賀川久保鳥栖線】

九州新幹線鹿児島ルートは、平成 23 年春に全線開業が予定されております。これに伴い県道佐賀川久保鳥栖線の南側に整備中の「新鳥栖駅」には、多くの乗降客が見込めます。

新駅周辺には、車利用者のための「パーク&ライド」の計画や粒子線がん治療施設の計画が進められています。

このような状況からも、県道佐賀川久保鳥栖線の整備は、新鳥栖駅へのアクセス向上に寄与するとともに、新鳥栖駅開業に伴い増加する自動車交通に対する安全性の確保などに効果を発揮するものと考えております。

《パーク&ライド計画》

- ・台数：約 250 台
- ・面積：約 10,000 m²
- ・開業時期：平成 23 年春予定

《粒子線がん治療施設計画》

- ・面積：約 14,600 m²
- ・事業費見込：約 150 億円
- ・開業時期：平成 25 年春予定